

28年 新春号



酒田市農業委員会報 No.41



「冬期湛水水田 今年もおいしい米がとれますように」 ～八幡地区～

新年のごあいさつ



酒田市農業委員会
会長
五十嵐 直太郎

新春を寿ぎ皆様と共にお慶びを申し上げます。

昨年は、日本農業の根幹を揺るがしかねないTPP交渉が、大筋合意となりました。その内容の説明と、担い手が安心して誇りを持って経営に取り組むための各種対策の確実な実施を講じるよう、強く願うところです。

また、農業委員会組織と制度の改革を目的とする「農業委員会等に関する法律」が改正され、今年の四月一日から改正法が施行されます。農業委員の選出方法が公選制から市長の任命制に変わる等、農業委員会の対応が今後大きく変わることとなります。

農業委員会は、これからも地域の農業者の代表としての自覚と気概を持ち、農業・農村の健全な発展に向け、農地利用の最適化の推進に向けた取り組みを、強化していきたいと考えています。

本年も、農業委員一同頑張ってまいりますので、ご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

特集

酒田農業を目標して

新春インタビュー

丸山市長 酒田の農業を語る

新春の特別企画として、昨年九月に新市長に就任した丸山至市長に、酒田の農業に対する想いや農業振興の考えなどについて、語っていただきました。

市長は副市長時代も含め、農産物のトップセールス等、酒田農業に携わっていますが、市長自身の農業に対する想いやお考えをお聞かせください。

農業は人手や手間のかかる産業だと思っています。また、農



地は国土保全、水源の涵養、自然環境の保全、景観形成、文化継承等、多面的な機能からも、本市の宝でもあります。

本市の基幹産業である農業部門の所得向上は、酒田経済活動に大きな影響を与えるもので、農業は大事な産業であることは言うまでもありません。

米価の低迷や米消費の減退等による、米離れはこの地域にとって死活問題であり、これが農業の一番の課題です。米はもちろんのこと、果樹や野菜も含め、トップセールス等による販売促進や輸出はとても大切なことと感じています。こうした展開は全国的に行われており、今や日本全体がライバルであるといっても過言ではありません。

やる気のある農業者から様々な知恵を出していただき、そして付加価値も付けながら「酒田



農産物」を売り出していくことが、これからの私の使命であると思っています。

農業者からの知恵が必要とお話ですが、そうした人づくりについて、お考えをお聞かせください。

やる気のある農業者が知恵を出し、地域農業をリードしてほしいと考えています。これからそうした担い手、特に、女性も含め若い後継者の育成が必要不可欠であると思っています。

そのためには、農業経営に夢を持って取り組める環境整備も

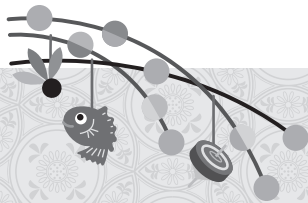
必要となってきます。

農業は、ただ単に栽培技術だけでなく、複式簿記、気象や流通など、あらゆる知識を必要とする総合産業であるとも言えます。そのためには、常に農業者自身が学習もしなければならぬという立場にあります。

こうしたことから、これからは他国の農業情勢や技術等を学ぶための海外派遣研修を事業化するなど、学習の場の提供にも力を入れていきたいと考えています。

また、庄内には山形大学農学部があるという利点を生かして、もつと農学部とも連携を図り、活用させていただく手法がないかと考えています。例えば、酒田農業に対して総合プロデューサーとして、栽培技術や経営面、最新情報等の提供を図ってもらい先導役として農業振興をリードしてもらおうような取り組みなどです。

あわせて、農業経営にもっとIT技術（栽培・管理技術、市場動向の調査、情報収集等）の導入もできないものかとも考えています。



夢があり 儲かる

地域農業を全体的にコーディネートする取り組みは必要だと思います。

さて、話は変わりますが、昨年、全国ねぎサミットが酒田市で行われましたが、その成果と今後の振興策についてどのような思われましたか。

酒田市へのねぎサミット誘致は二年を要しました。結果として、全国から多くの皆さんにご来場をいただくことができました。今回の酒田市開催は、地域PR、農産物PRも含め、大きな成果があったものと考えており、全国規模のイベントがもたらす効果の大切さを改めて思いました。JAをはじめ、関係機関・団体等の皆様のご協力に、深く感謝申し上げます。

各出店ブースを見て回りましたが、他市町の販売の仕方が上手だと思いました。深谷（埼玉県）や下仁田（群馬県）等、今回参加されたネギの一大産地は地域を挙げて頑張っています。「地域をPRし、農産物売るんだ」という想いの強さや、仕

掛けの仕方も大切だと感じました。

また、これからは、市役所やJA、県、あるいは農家の生産グループが、それぞれ単発に施策や行動を行うのではなく、皆が一体となって計画をつくり、オール酒田で農業振興に突き進めるような、仕組みづくりも必要であると考えています。



聞き手：（左から）佐藤好博農業委員会会長職務代理者、五十嵐直太郎農業委員会会長、後藤保喜会報委員長

農業振興に必要なものとして、その他にお考えのことをお聞かせください。

農業経営における生産費コストと収益を考えた場合、コストは削減していく努力が必要であると思います。そうした意味では、担い手への農地集積・集約化を推進していく必要があります。集落営農組織の法人化による効率的で継続的な経営も大切になってきます。

また、米だけに頼らない農業として、園芸作物を含めた複合経営による生産拡大とあわせ、六次産業化による加工品の売り込み、観光面との連携等も進めていく必要があると考えています。

ところで、昨年はTPP協定交渉の大筋合意となりましたが、本市に与える影響についてはどのようにお考えですか。

TPPについては、分析結果等の資料によれば、本市の主要作物である米への影響は小さい



と考えられています。不明な部分も多く、市としても対応に苦慮している状況です。特に畜産においては影響が心配され、引き続き情報収集に努め、影響が想定されるものについては、早期に対応策を検討していきたいと考えています。

どうもありがとうございました。最後は、一言お願いします。

これからも、市民の皆さんと一緒に「夢があり、儲かる農業」を目指していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

にぎわう「やまがた庄内・農山漁食まつり」



全国ねぎサミットの開催に合わせて、10月31日～11月1日に「やまがた庄内・農山漁食まつり」が開催されました。農業委員会では、酒田の農産物の紹介やサツマイモの試食や販売、日ごろの農業委員会活動をPR。地元のみならず、県内外から訪れた大勢のお客様にうれしい酒田を発信しました。



農業委員会

活動レポート

全国農業担い手サミット

全国農業担い手サミットが一月一〇日から一二日に宮崎県で開催され、農業委員四名が参加しました。

宮崎県でも離農する農業者が多く、後継者不足で担い手に農地が集中している現状は、山形県と同様です。

今回の現地研修地域である西臼杵地域は、山林の中に点在する中



(左から) 荘司委員、柿崎委員、齋藤委員

山形県農業委員大会

山間地域です。圃場も小さく農業の機械化もできない、条件の良い農地を活用し、水稲とお茶等、地域の特性を生かした品目を導入しての複合経営に、深く感銘を覚えました。(池田良之委員)



中山間地域を活用した茶畑

山形県農業委員大会が、一月三〇日に天童市で開催されました。県内の農業委員が一堂に会し、農業の持続的な発展を実現するための政策提言等、大会議案については全て可決。また、席上、酒田市の荘司太一郎委員、柿崎一美委員、齋藤均委員の三名が、永年勤続功労により、県農業会議会長表彰を受けられました。

女性農業委員研修会

一月二〇日に秋田市で開催の東北・北海道ブロック女性農業委員研修会に、三名の女性委員が出席しました。



女性委員の更なる活躍に向けて研修を

「女性農業委員が自信を持って活動するために」と題した講演や活動事例などを、活動の参考にしていきたいと思えます。(佐藤玲子委員)

社会福祉事業に役立てて

一月六日、酒田市社会福祉協議会へサツマイモを贈呈しました。耕作放棄地解消と農地を有効に活用するため、農業委員会

で春から栽培に取り組み、秋に収穫したサツ



サツマイモ「紅はるか」を贈呈

マイモを、社会福祉事業に役立てていただきました。

恋の序曲

農業青年の出会い交流イベント

一月一五日に、庄内地区農業青年出会い・交流事業が開催されました。

農家のおせっかいおばさん七名のエスコートが功を奏し、見事四組のカップルが誕生しました。



農業者年金に加入しましょう

老後の生活をしっかりサポートします。農業に従事する方なら、広く加入いただけます。

*** 農業者年金のメリット ***

- ① 少子・高齢化時代に強い積み立て方式
- ② 保険料の額は自由に決められます
- ③ 終身年金で80歳までの保証付き
- ④ 保険料は全額社会保険料控除
- ⑤ 手厚い政策支援（保険料に国庫補助も）

キラリな女性

かがやく女性農業者

農産物を利用して



亀ヶ崎 松本 麻里

私は酒田市内から嫁ぎましたが農家ではなかったため、新鮮で安心な野菜などを旬の時期にたっぷり味わえることは、農家ならではと思うところ。家族が協力して行う餅つきや味噌作り、簡略化しつつありますが昔の風習が残っている所も新鮮に思います。

数年前から米粉が普及し始め、主人が作った米を利用して菓子加工に取り組みました。

子どもたちのおやつ作りからはじめてみて、自家用にはなるけれど商品には程遠いということが続きました。セミナーや交流会等での情報収集や試作等を重ね、現在は数種類の米粉クッキーを商品化することができました。もともと

加工所があったので、挑戦しやすい環境にありました。また、家族の後押しがあるからこそ続けられています。一人作業なのでやれることが限られてきますが、米粉や地元の農産物を使った商品を作っていければと思っています。

産直関係では酒田の農産物や生産者の方と触れる機会も増え、先輩から多くのことを学ばせていただいています。そして同世代女性農業者グループのメンバーになり、販売やイベント活動などに楽しく参加しています。仲間が増えて交流が深まってきたことが、何よりうれしく思います。



米粉クッキーを作ります

かぜ

～若手農業者リレーエッセー～



「若いのに良くやってるね」と言われていたのは今から十数年前、二〇代のころでした。私は水稲と和牛繁殖の経営をしています。私が就農したのは、

一五年前です。高校卒業後に就職しましたが、東京への転勤や父親が体調を崩したこともあり、仕事を辞めて就農することにしました。

当時は畜産の研修や会議等に行っても、周りは六〇代くらいの大先輩ばかり。どこでも「若いのに良くやってるね」と言われ、未熟な私は勘違いしながら何年もやってきました。しかし、BSEに始まり、口蹄疫、震災、原発など畜産業界はかつ

新しい力

茨野新田 佐藤 允 英

てない被害を立て続けに受けました。私は試行錯誤しながら、それまでとは違う、和牛繁殖に取り組むことにしました。四、五年前のことです。その間に自分も三〇代になり、農協青年部活動にも参加。畜産関係にも若手が増え、彼らも畜産の厳しい時を経験しているのです。しっかりした考えを持っています。新しい力を持った担い手が台頭してくると、私も力をもらえるような気がします。

農業の今後がよく話題になっていますが、新しい世代が力強く動き出していることを、実感しています。私は現在、水稲、畜産の規模拡大を検討中です。「若いのに良くやってるね」という言葉は、若手のためでなく、自分を奮い立たせる言葉として使っていたのではないかと、最近思います。私も後輩の方々に言います。

「若いのに良くやってるね」よし！同志達よもつとやろうぜ！

農業一筋

八幡地区・寺田

荒生 比俊
茂子 比俊 ご夫妻



比俊さん（七十二歳）、茂子さん（六七歳）ご夫妻は結婚とともに先代から農業をバトンタッチされ、以来、水稻を中心に農業を続けてきました。

昭和六〇年には原木しいたけの栽培も開始。かつては原木しいたけ部会もあり、八幡のしいたけは高い評価を受けています。今も、肉厚で歯ごたえの良い食感の原木しいたけ栽培へのこだわりを持ち続けています。

また、産直「たわわ」には、設立当初から組合員として加入し、農産物や加工品を出荷して

います。比俊さんは、自宅敷地内に「考房」と名付けた惣菜と菓子の加工施設を設置し、六次産業に取り組んできました。麴は作り始めて一〇年になります。当初は、冬の季節だけの生産でしたが、試行錯誤を重ねて甘酒を作ったところ「切らさず置いてほしい」とのお得意さんの声があり、今年は夏も販売しました。

お二人共通の趣味は、産直めぐり。そこからヒントを得て、加工品作りへの取り組みにつながっています。これからも、お二人の発想による新たな加工品が、直売所にお目見えするのを楽しみにしています。

（池田良之委員）



短 信

農業委員会等に関する法律の改正について

農業委員会等に関する法律の改正案が平成二十七年八月二八日に国会で成立し、同年九月四日に公布されました。

改正法は、農地利用の最適化（担い手への集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進）を推進するため、一 農業委員の選出方法を公選

制から市長の任命制に変更
二 農地利用最適化推進委員の新設

等の改正が行われ、平成二八年四月一日から施行されます。

なお、施行日に在任する農業委員会の委員は任期満了の日まで在任することになります。

当市においては、農業委員の任期が平成二九年一月末までとなることから、改正法への移行は平成二九年二月一日となります。詳細については、次号でお知らせします。

平成28年度 酒田市参考賃借料

		(10a当たり)		
農地	区分	平成27年度	平成28年度	基準収量
田	1	12,000円	12,000円	600kg
	2	10,000円	10,000円	580kg
	3	7,000円	7,000円	550kg
	4	4,000円	4,000円	520kg
	5	1,000円	1,000円	480kg
畑		4,000円	4,000円	

酒田市農地集積センター参考賃借料検討協議会 作成

※飽くまでも参考の金額ですので、委託者・受託者双方で相談して決定してください。

※転作（大豆・飼料用米）を加味した額となっています。

※土地改良区の償還金があるところ、変形田、中山間地等の作業環境が悪いところについては、委託者・受託者双方で相談して決定してください。

・・・ご案内・・・

1月4日から農業委員会事務局は
新庁舎6階での業務となります。

農事組合法人「希望ファーム大宮」

代表理事 佐藤 茂樹



営農組織での限界を感じるようになりまし。担い手（若い世代）への土台作りや体制作りを含めての作業の協同化を進めるため「希望ファーム大宮」を設立しました。

○これからの抱負を

農山漁食まつりで販売した人参は、お客様に好評でした。今期の人参の収穫は二か月ほどかかりましたが、今後は、人参との



の作業がダブらない園芸品目に取り組み、所得の増を目指していきたいと思っています。

○名前の由来を教えてください
集落営農組織の設立時にみんなで話し合い「希望の持てる農業経営をみんなで目指そう」ということで「希望ファーム大宮」という名称になりました。

○経営の内容は
組合員二名 経営面積五一畝
主な農産物 米、大豆、人参

○設立のきっかけは何ですか
組合員の高齢化が進み、集落

なんの野菜の花？



ヒント

- ◇ユリ科の植物でネギの仲間です。
- ◇産地の袖浦地区では、雪の中から掘り出し、ハウスの中で新芽の成長を促します。
- ◇酢みそあえが定番メニューですが、てんぷらなどにしてもおいしい早春の野菜です。

答え・アサツキ

編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年の世相を反映した流行語大賞は「爆買い」と「トリプルスリー」でした。僥越ながら私なりに一年を振り返り、心に残った言葉を考えてみました。

一つめが、ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智氏が、テレビ番組に出演し農業について質問され「農業は植物学・土壌学・気象学といった科学を総合した職業である」の言葉。同様のことを丸山市長もおっしゃっています。

二つめが、農業生産法人の研修会で税理士の先生が、講演の最後に「強いモノが生き残れるのではない。環境に適応できるモノが生き残ってきたのだ」とダウインの進化論の言葉を紹介し、講演を閉じられました。一つの言葉に感銘したり、励まされたりします。

さて、今年はどうな言葉に出会えるのでしょうか。

(ごとう)